

包括的な支援体制の充実と 参加支援の視点



×



社会福祉法人

大阪市社会福祉協議会

包括的な支援体制の整備に向けた国の動き

地域共生社会の実現 (第4条第1項)

地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生する地域社会の実現を目指して行われなければならない。

地域福祉の推進

(第4条第2項)

地域生活課題の把握、連携 による解決に向けた取り組み

(第4条第3項)

包括的な支援体制の整備

(第106条の3)

市町村に地域の特性を踏まえた、包括的な支援体制(※)の整備に努めることを義務づけ

(※) 以下、3点の機能を有する体制

- ① 地域住民同士が支え合う機能
- ② 支援関係機関が連携して支援を行う機能
- ③ 地域住民と支援関係機関をつなぐ機能

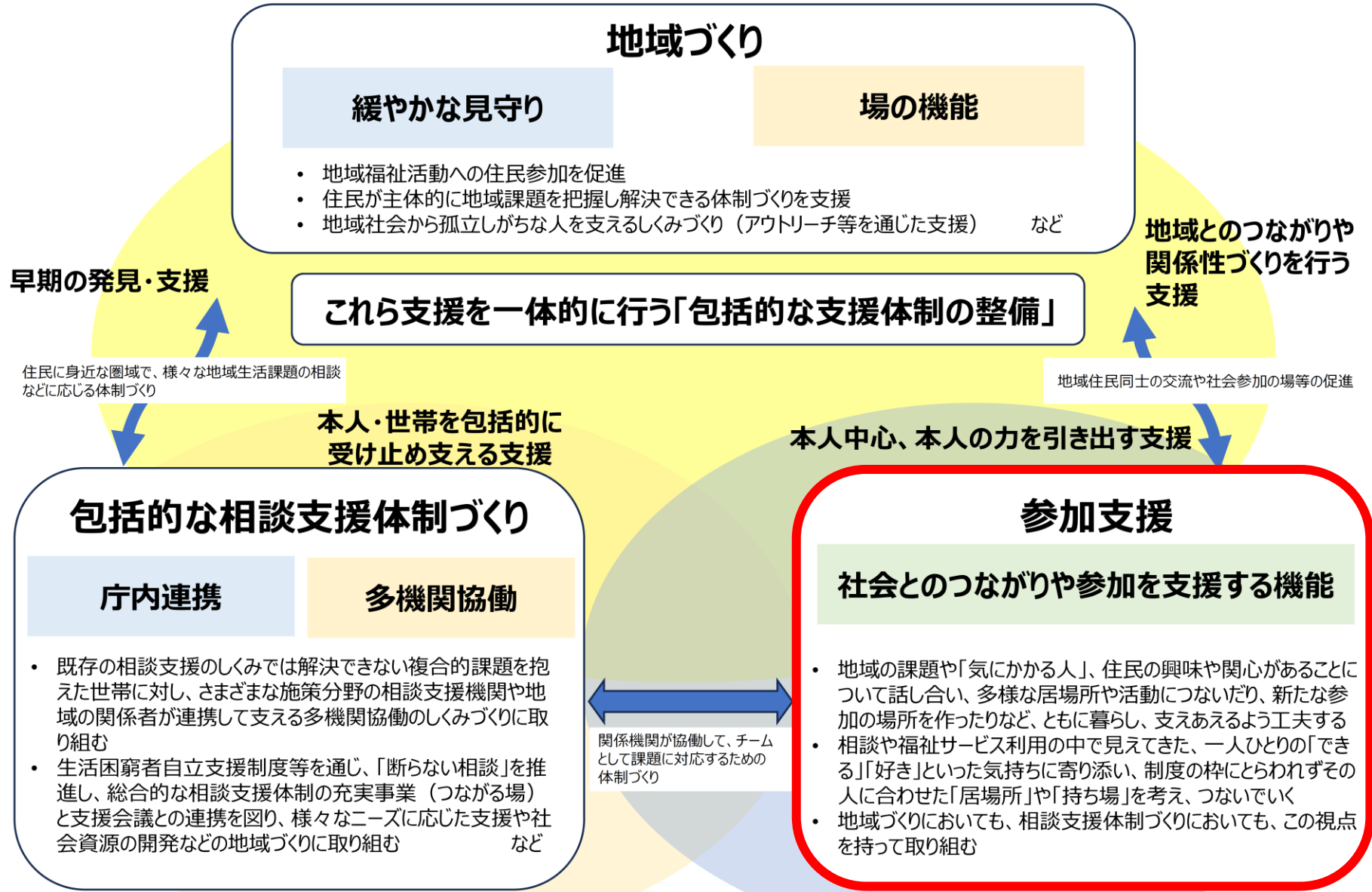
重層的支援体制整備事業

(第106条の4)

包括的な支援体制の整備の手法の一つとして、市町村において相談支援、参加支援、地域づくりを一体的に実施する事業

(任意事業：全国473箇所 (R7年度予定))

本市における包括的な支援体制の整備に向けて

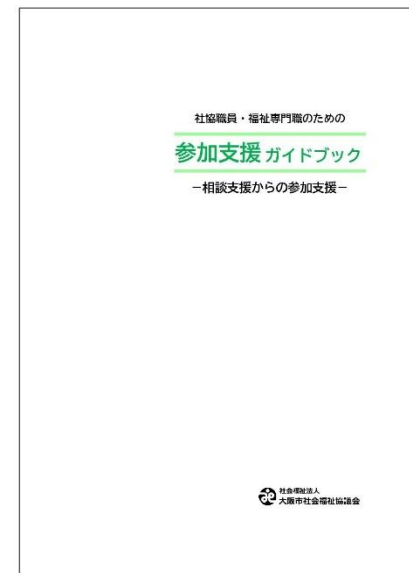


※国の資料をもとに市基本計画を反映

社協職員・福祉専門職のための

参加支援ガイドブック

－相談支援からの参加支援－



社会福祉法人
大阪市社会福祉協議会

ガイドブック作成の背景とねらい

- ・ 社会福祉法に位置付けられる「重層的支援体制整備事業」などから「参加支援」が注目されている。
- ・ 大阪市社会福祉協議会策定の「第3期 大阪市地域福祉活動推進計画」でも、重点推進項目として「参加支援」の強化をめざしている。

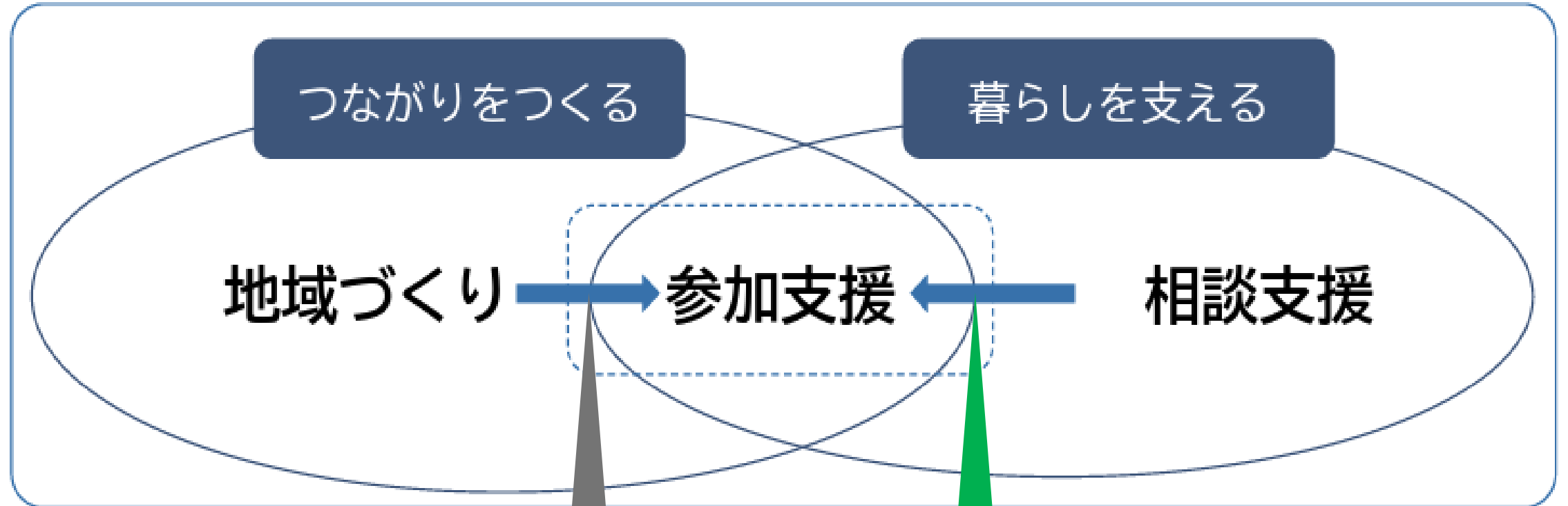


参加支援は決して新しいものではなく、特定の事業や担当に限らず、実践や活動のなかで数多く取り組まれてきたものではないか。

住民一人ひとりの社会参加を福祉専門職として支援するということを改めて見つめ直し、特に「**相談支援からの参加支援**」に焦点を当て、共通するポイントをまとめた。

※何かしらの生活課題や困難を抱える人の社会参加（参加支援）を中心に、福祉専門職としての予防的な関わり、孤立防止や生きがいづくりにつなげることも含む。

ガイドブックのテーマについて



場づくり・地域づくりを通じた参加支援
(今後作成予定のテーマ)

相談支援からの参加支援
(令和6年度のテーマ)

ガイドブックの掲載内容

《 目次 》

はじめに		1
1	そもそも社会参加・参加支援とは	3
2	大阪市における参加支援の推進に向けて	7
3	相談支援からの参加支援のポイント	10
資料編		24

社会参加を支援するということ

社会的孤立と支援の必要性

- ・ サポートの乏しさ、強い孤独感、生活上の不安、健康リスクとも関連
- ・ 深刻な状態にある人への積極的な関わり + 予防的支援の視点

生活の主体、参加の主役は本人

- ・ 本人が選択・行動できるように提案し、ていねいに意思確認
- ・ 決めつけ、押し付けから「断れない参加支援」にならないように

「場づくり・地域づくり」あつての参加支援

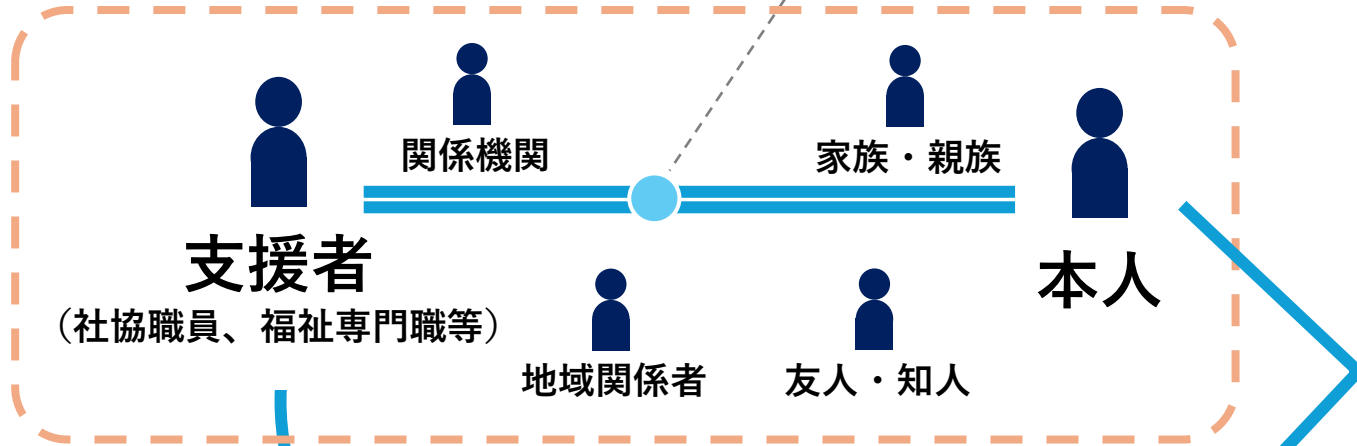
- ・ 参加の場は、単なる受け皿ではなく、固有性・主体性をもつ存在と見る
- ・ 住民・ボランティア等による参加支援にあたる動きにも目を向ける
(例：気にかける、見守る、声をかける、お誘いする、受け入れる、関わる人同士で情報共有する、福祉専門職と連携するなど)

相談支援からの参加支援のポイント

- ① 本人との関わりの入口・きっかけづくりと関係構築
- ② 生活課題への対応を中心としたアセスメントと具体的な支援
- ③ 社会参加を見据えたアセスメントと提案・すり合わせ
- ④ 場への参加やつながりづくりに向けた事前調整
- ⑤ 参加やつながりのサポートと直後のフォロー
- ⑥ 状況に応じた支援・調整の継続

相談支援からの 参加支援イメージ図

- ① 本人との関わりの入口・きっかけづくりと関係構築
- ② 生活課題への対応を中心としたアセスメントと具体的な支援
- ③ 社会参加を見据えたアセスメントと提案・すり合わせ



⑤ 参加やつながりのサポートと直後のフォロー

⑥ 状況に応じた支援・調整の継続

日頃からの情報収集・状況把握と関係性・連携体制づくり

④ 場への参加やつながりづくりに向けた事前調整



※①～⑥の各段階は、基本的な流れであり、事例により順序の違いや、いずれかの段階の繰り返しや省略などあり

参加支援の推進方法におけるポイントと備えるべき視点

- 参加支援の推進方法について、6つのポイント（25の小項目）及び実践するうえで備えるべき視点を整理しています。

① 本人との関わりの入口・きっかけづくりと関係構築

- 信頼して相談・紹介してもらえる窓口となるよう、周知や日々の関わりを積み重ねる
- 本人のこれまでの生活スタイル、持っている力、社会との接点や関係性を把握する
- 本人を気にかける周囲の人の思いにも目を向け、その人との関係性も大切にする

② 生活課題への対応を中心としたアセスメントと具体的支援

- 本人主体を基本とし、本人とともに生活状況や課題を整理し、めざす方向を決める
- 今すぐに必要な支援は何か、緊急度・優先度を見極め、スピード感をもって対応する
- 今後の生活を見据え、予測される展開やリスクを想定し、多職種で検討・支援する
- 福祉専門職としての関わりそのものが、本人にとっては社会との接点の一つと捉える

③ 社会参加を見据えたアセスメントと提案・すり合わせ

- 関わりを通じて、望む暮らしやつながり、興味・関心、得意なことなどを把握する
- 日頃から参加の場・関係先の情報収集に努め、一人ひとりに合った場を考える
- 本人の判断能力等をふまえ、思いを引き出し、よりよい選択ができるように関わる
- 本人にとってわかりやすい形で情報や選択肢を伝え、ていねいに意思確認する
- 場への参加にこだわらず、日常のつながり、社会との接点、関係性を大切にする

④ 場への参加やつながりづくりに向けた事前調整

- 参加の場を単なる受け皿と見ず、固有の歴史や価値観を持つ活動主体として尊重する
- つなぐ際には、福祉専門職としての思いやねらいを伝え、ていねいにすり合わせる
- 事前の情報共有にあたっては、個人情報の取扱いやプライバシーには十分に配慮する
- 本人の円滑な参加にあたって壁となることを想定しておき、事前に調整する
- 本人に合う場がない場合は、新たな場の必要性を福祉専門職として共有・検討する

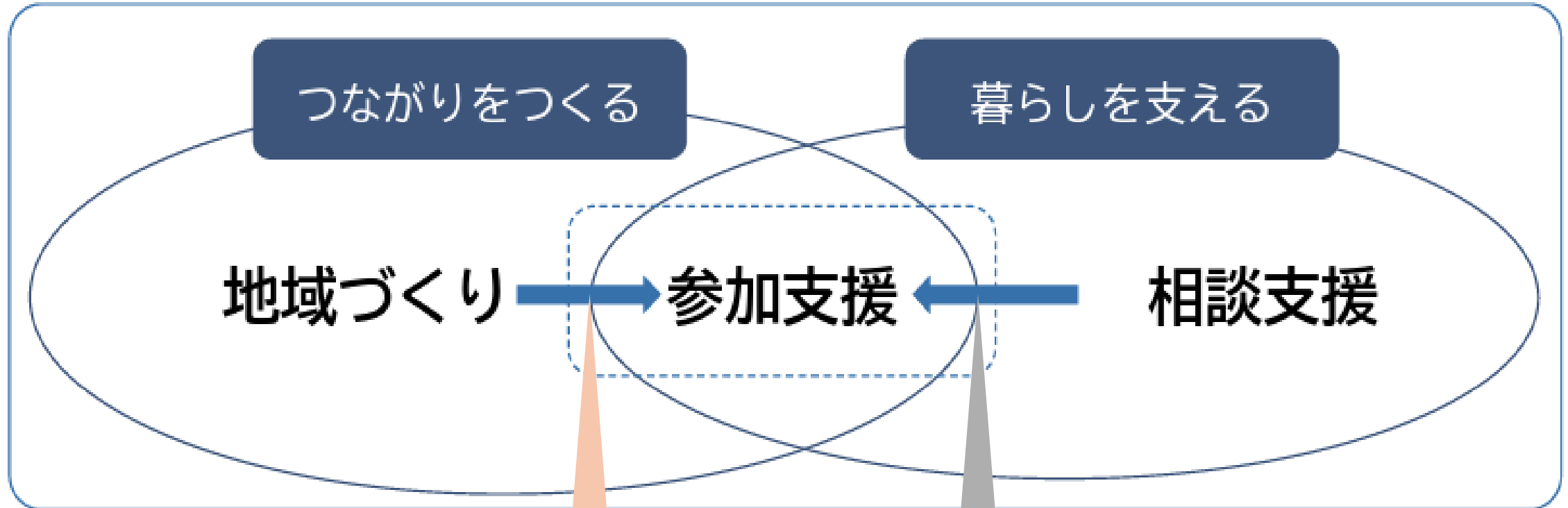
⑤ 参加やつながりのサポートと直後のフォロー

- 初めての場に参加する不安や戸惑う気持ちに寄り添う
- 顔つなぎ・関係づくり・フォローができるよう、初期段階は同行・同席を重視する
- 参加後、本人の様子や発言から、感想や気持ちの変化、以後の意向を確認する
- 参加の場へ感謝を伝え、参加の場と福祉専門職双方の思い・視点・気づきを共有する

⑥ 状況に応じた支援・調整の継続

- 継続参加、参加の形の変化、第2・第3の場の紹介など、状況に応じた支援を続ける
- 心身状況・意識・環境の変化を見逃さず、生活課題の予防や解決に向けて支援する
- 本人や同様の課題を抱える人への理解や見守りに向けて、ともに考える機会をつくる
- 落ち着いた後も、いつでも相談を受ける姿勢を本人、周囲の人、参加の場に伝える

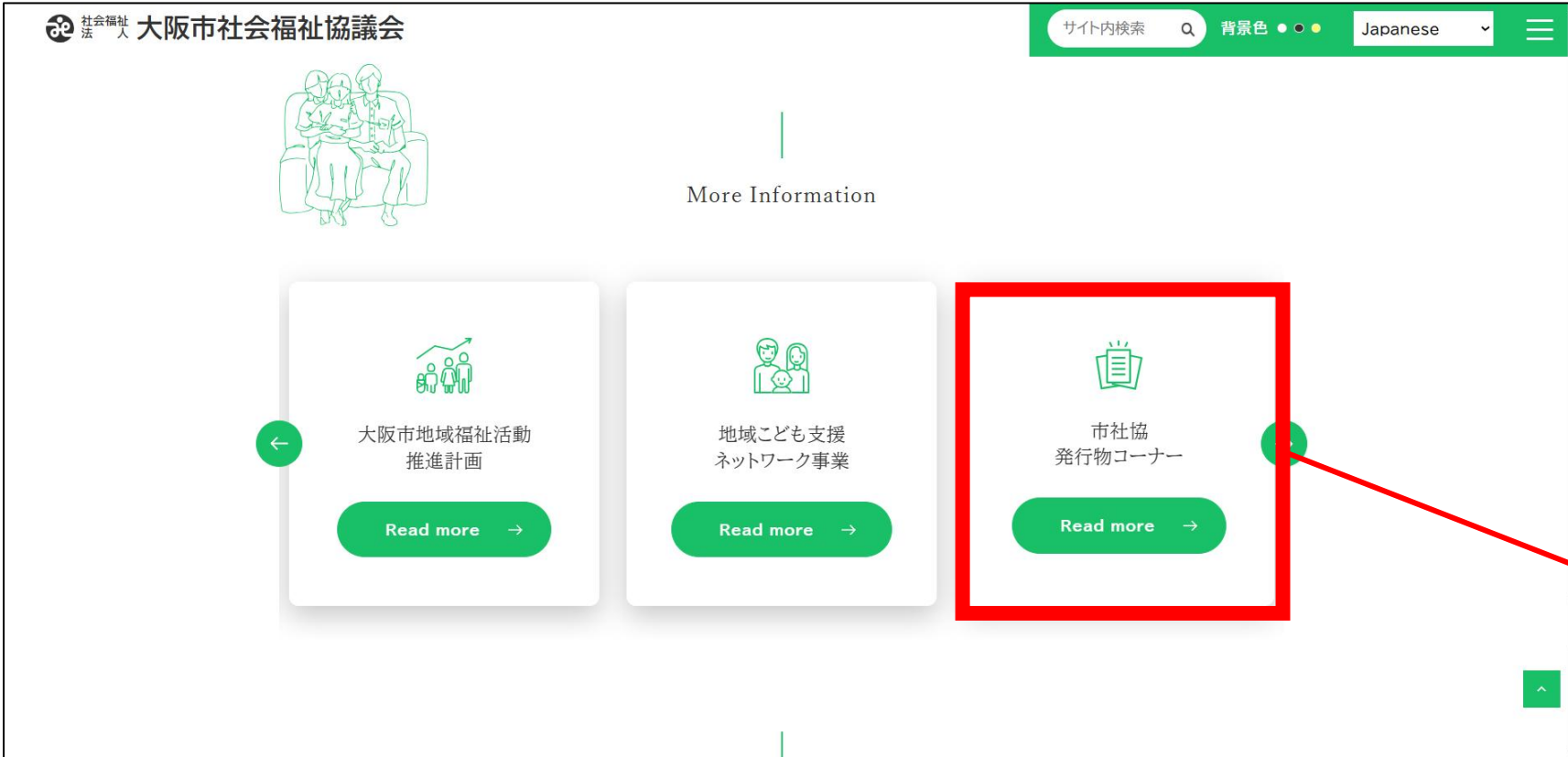
追補版の作成について



場づくり・地域づくりを通じた参加支援
(今後作成予定のテーマ)

相談支援からの参加支援
(令和6年度のテーマ)

「社協職員・福祉専門職のための参加支援ガイドブック －相談支援からの参加支援－」のダウンロードはこちらから



大阪市社会福祉協議会
ホームページの**トップページ**
を下にスクロールして
「市社協発行物コーナー」
をクリックすると、年度別の
発行物が表示されますので
「令和6年度」から
ご覧ください。

ガイドブックに関する問合せ先
社会福祉法法人 大阪市社会福祉協議会
福祉部 地域福祉推進担当（電話06-6765-5606）